

平成21事業年度の業務実績に関する評価結果（修正案）作成に係る主な意見

区分	評価委員会意見
<p>- 1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 (評価結果 p 6 に特記事項として記載)</p>	<p>医師や看護師が不足している状況であるにも関わらず、チーム医療による医療提供体制を整備し、医療の効率性の向上に努めている。</p> <p>今後も、チーム医療の推進により、医療従事者の負担軽減とともに、医療の標準化・組織化を通じた医療安全の向上につながるよう期待する。</p> <p>病院が、医療スタッフの育成に熱心に取り組んでいることを評価している。</p> <p>一方で、近年、佐世保地域における看護師不足が顕在化してきている実情を踏まえ、看護実習を積極的に受け入れるなどして、地域の医療水準の維持・向上への貢献を求めたい。</p> <p>患者満足度調査を年1回実施されているが、さらに幅広く病院利用者の声を収集するため、意見箱等の設置についても検討し、利用者サービスの向上に努めることを期待する。</p>
<p>- 2 業務運営の改善及び効率化に関する事項 (評価結果 p 8 に特記事項として記載)</p>	<p>財務諸表中「医業貸倒損失」について、11年分の損失を一挙に費用として計上されている。計画性や年次的変化の確認を行い、会計上の評価を可能とするためにも、貸倒れに関する処理のルールを定め、当該手続きに則って処理を行うことが必要である。</p> <p>その結果生じる毎年度の貸倒損失額が、財務諸表に計上されるべきであり、会計規律を適正な形で保つためにも、早急なルール作りが行われることを期待する。</p>
<p>- 3 財務内容の改善に関する事項 (評価結果 p 10 に特記事項として記載)</p>	<p>キャッシュ・フロー計算書において、病院の業務活動によるキャッシュ・フローと投資活動によるキャッシュ・フローの差であるフリー・キャッシュ・フローは約2億9千万円であった。</p> <p>フリー・キャッシュ・フローは、法人の資金獲得能力と債務返済能力を表すものであり、法人の経営規模から鑑みて、約2億9千万円のフリー・キャッシュ・フローを生み出したことは高く評価できる。</p> <p>引き続き、経営基盤の強化及び法人運営の健全化に努め、長期的に安定した病院運営を期待する。</p>